

Devotion

— 小川紳介と生きた人々

監督：バーバラ・ハマー／2000年／日本・アメリカ／カラー／ベータカム／82分

出演：大島渚 原一男 ロバート・クレマー 土本典昭

黒木和雄 羽田澄子 白石洋子 ほか

山形国際ドキュメンタリー映画祭2001特別招待作品

配給：パンドラ tel.03-3555-3987 <http://www.pan-dora.co.jp>



18本の映画と1億円の借金を残して逝った男

Devotion

— 小川紳介と生きた人々

devotion—n. 1 a 献納, 奉獻, b 献身, 専念, 傾倒; [ある目的・主義のために] 捧げる [当てる] こと, 傾注, 提供 [to]; 熱情, 愛着, 2 信心, 信仰, 帰依

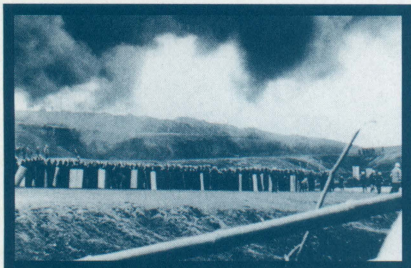
ベルリン国際映画祭2001 台湾国際映画祭2000 ほか

製作・監督・撮影・録音・編集：バーバラ・ハマー アソシエイトプロデューサー：中野理恵 小野聖子
 助監督：嶋田美子 撮影：飯塚俊男 白石洋子 伏原修一 録音：田中純子 製作助手：田中純子 ジュリー
 テーション 編集助手：嶋田美子 2000年/日本・アメリカ/カナダ/ペルー/イタリヤ/82分
 原題：DEVOTION 協力：赤沼明夫 アベ・マーク・ノーマス アマンダ・オルト サム・モリス 鈴木
 美保 ふくもりなおみ ホール・ヒル 山形国際ドキュメンタリー映画祭 リンダ・ホーグラント バンド
 ラ 資料映像提供：アテネ・フランセ文化センター 小川プロダクション サードワールド・ニュース
 プラネット映画資料館 山形テレビジョンシステム ユーロベース 助成：財団法人東京女性財団
 国際交流基金 Wexner Center for the Arts Tokyo Tete Residency 写真提供：アテネ・フランセ文化センター
 配給：パンドラ http://www.pan-dora.co.jp Tel 03-3555-3987 © 2000.Barbara Hammer

「革命」ということばが身近だった〈政治の季節〉に、ひとつの映画製作集団があった。その名は小川プロダクション。共同生活を通して映画製作をするという、世界に類を見ないスタイルをとっていた彼らは、政治闘争に「同伴」する映画製作集団として、若者たちの熱い視線を浴びていた。その集団を強烈なカリスマ性で統率したのが映画監督・小川紳介だった。没後10年を経ようとする今、元スタッフたちが口を開き、人間・小川紳介について語り始めた……。

監督はアメリカ人女性映像作家バーバラ・ハマー。個人映画に近い手法でレスビアンなどの声を拾い上げてきたドキュメンタリストと、それと対照的なドキュメンタリー作家・小川紳介との偶然の出会いからこの映画の撮影は開始された。バーバラ・ハマーが小川プロの映画から受けた啓示のような何かに導かれて、同時代を生きた映画人や、元小川プロスタッフへの〈巡礼〉に赴いた時、思いもかけず複数の声が始まった。そこには共同体における男女の関係、カリスマをめぐる問題など、現在にも通じる普遍的なテーマが隠されていた……。

[インタビューに応えている人々
 大島渚 原一男 ロバート・クレマー 土本典昭 黒木和雄 羽田澄子 白石洋子 ほか]



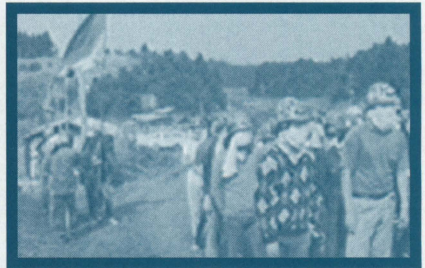
“個人の記憶が交錯する場”としての共同体…………… 斉藤綾子

『Devotion—小川紳介と生きた人々』は、小川紳介という一人のドキュメンタリー作家の神話解体を試みた映画だと考えられるだろう。日本のドキュメンタリー史上に足跡を残した小川プロのスタッフへのインタビューから浮かび上がってくるのは、極めて日本的とも言えるユートピア的な共同体を試みた類稀なる製作集団の知られざる側面であり、ある意味で父親のような存在であった小川紳介という一人の男性に対する畏敬や反発、抑圧といったさまざまな感情が交錯する複雑で愛憎に満ちた両価的な人間関係そのものである。

ハマーが焦点を合わせるのは、このような擬似家族形態の中で発生した一つの抑圧構造であり、さらには家族形態を維持していくのに必要不可欠でありながら、前面には決して出ることのない女性、セクシュアリティ、金の存在だ。とりわけ、大島渚が指摘するように小川プロに潜み極めてホモソーシャルな関係の中で、擬似家族形態を維持するのに必要不可欠だったにもかかわらず、作品のレベルではほとんど存在感のない女性スタッフ（彼女たちの名は「家事」とクレジットされたが）やスタッフの妻たちの発言は、共同体を形成する公の歴史によって消されてきたマイノリティの声を感ぜさせ興味深い。つまり、『Devotion—小川紳介と生きた人々』におけるハマーの試みは、小川プロを一つの日本的な、それも極めてホモソーシャルな集団として捉え、その絶対的な存在の前に声を持たなかった人々の声を拾い上げることだったのだろう。歴史は一つの公の声でなく、複数の埋もれた声によって成り立っているというハマーの意識で捉えられた小川プロは、小川紳介という家長が演出しようとしたフィクションとしての共同体の陰に潜む“個人の記憶が交錯する場”としての共同体である。

『Devotion—小川紳介と生きた人々』が私たちに明らかにしてくれるのは、小川紳介のさらなる神話構築ではなく、小川プロという映画製作集団は現在進行中の問題だという点である。私たちの“ディヴォーション”という問いはここから始まる。

さいとう・あやこ：明治学院大学文学部助教授。映画理論専攻



「小川プロが日本に存在したのは一つの時代的な奇跡である」— 大島 渚 同時開催「小川紳介没後10周年—小川紳介と小川プロダクション」〈全作品上映〉

各回完全入替制	1:00	3:00	5:00	7:00	9:00
2/9(土)	ニッポン国古屋敷村		トーク+Devotion	千年シアター+映画作りと	
10(日)	トーク+Devotion	映画の都	ニッポン国古屋敷村		
11(休)	トーク+青年の海	庄殺の森	トーク+小川プロ訪問記	三里塚の夏	
12(火)	映画の都	Devotion	庄殺の森	バルチザン前史	
13(水)	千年シアター+映画作りと	現認報告書	(4:20) 日本解放戦線・三里塚	Devotion	
14(木)	青年の海	バルチザン前史	(5:10) Devotion	庄殺の森	
15(金)	日本解放戦線・三里塚	(3:30) Devotion	(5:10) 三里塚・第三次強制測量	(6:40) 三里塚・第二巻の人々	
16(土)	三里塚の夏	日本解放戦線・三里塚	(5:30) 三里塚・第三次強制測量	三里塚・岩山に	Devotion
17(日)	バルチザン前史	1000年刻みの日時計		三里塚・辺田部落	
18(月)	三里塚・辺田部落	(3:40) 三里塚・第三次強制測量	Devotion	(6:40) 現認報告書	(8:00) 日本解放戦線・三里塚
19(火)	1000年刻みの日時計		三里塚・五月の空	(6:50) どっこい人間節	Devotion
20(水)	三里塚・第二巻の人々	(3:35) Devotion	(5:05) 三里塚・岩山に	(6:40) 辺田部落	(9:10) 三里塚・五月の空
21(木)	Devotion	どっこい人間節	(5:20) 青年の海	(6:50) クリーンセンター+姉	(8:40) 牧野物語・養蚕編
22(金)	牧野物語・養蚕編	クリーンセンター+姉	Devotion	(6:50) 1000年刻みの日時計	
23(土)~25(月)	Devotion				

2月9日(土)よりロードショー!

トークショーも開催!!

2/9(土) 5:00 北川れん子(衆議院議員)
 2/10(日) 1:00 原一男(映画監督)
 2/11(休) 1:00 江利川憲(フリー編集者)
 5:00 大重潤一郎(監督)×安井喜雄(プラネット代表)

前売1400円好評発売中

■当日/一般1700円、学生1400円、高・中・小・シニア1000円

「小川紳介と小川プロダクション」は
前売1回券1000円、3回券2400円
 ■当日/一般1300円、学生1100円、
 高・中・小・シニア1000円 当日3回券3000円

地下鉄中央線 九条駅 16番出口徒歩2分
シネ・ヌーヴォ
 TEL.06-6582-1416
 (シネ・ヌーヴォのホームページ)アドレス
 http://terra.zone.ne.jp/cinenouveau/